

「全鍍連」 2021年 8月号 巻頭言

全鍍連 環境担当副会長 石崎 利一

(墨田硬質クローム鍍金(有) 代表取締役社長)

「ピンチかチャンスか」



日頃より全国鍍金工業組合連合会の会員の皆様には大変お世話になっております。

今年度の総会において副会長に就任させて頂きました東京都鍍金工業組合の石崎です。以前は常任理事として技術委員会副委員長を務めさせて頂いておりました。技術委員会での大きな仕事はなんと言っても「めっきコンクール」だと思います。残念ながら昨年度はコロナ禍の影響で中止となってしまいましたが、今年度は何とか開催する運びとなっております。8月は順調にいけば各部門の審査の時期ですので今年は昨年の分まで頑張るつもりでおります。ですが担当が環境委員会になってしまい少々ガッカリしております。とはいえ、今年は亜鉛の暫定排水基準が12月に更新時期を迎え、来年6月にはホウ素、フッ素の暫定排水基準の更新時期を迎えます。今後は鍍金事業者が安心して事業を営めるように環境規制問題に取り組んでいく所存です。

話は変わりますがコロナ禍の影響で仕事が増えたところ、減少したところと同じめっき業界でも極端に違いが出ているように思います。しかし思い起こせばこの不況の始まりは一昨年の消費税の増税からだと思います。消費税の増税不況にコロナ禍の影響で更に不況になったのが真相ではないかと思います。

ものが売れないのは確かに生活様式の変化があるとは思いますが。だとすると、コロナ禍が無くなるまでもものは売れない、消費活動は復活しない事になります。しかし、そんなことはありません。現状でも変化した生活に合ったものは確実に売り上げを伸ばしています。

つまり今までと同じ事を続けていても我々の業績は良くならないのではないのでしょうか。簡単に言うつもりはありません。会社の業態やスケールによって対処の方法は千差万別だと思いますし急激な変化はいろいろなところに歪みを生むと思います。ですが何もやらずに我慢していればいつかは景気が良くなって仕事が増えると考えるのは少し違う気がします。我々めっき業はものづくりとは言っても加工業です。殆どの場合お客様からのお預かりした製品に加工を施して出荷しています。オリジナルブランド品ではないので難しい側面もありますが、何とか頑張って少しでも時代に合わせた変化が必要だと思います。

ピンチとチャンスは表裏一体だと思います。諦めたときが終わるときです。

因みに、東京都鍍金工業組合全体では景気が回復基調にはあるようですが電子部品、工業用品、装飾品と業種業態によってかなり回復基調には差があるようです。

我々鍍金業界にとって難しい時代ではありますが業界全体で英知を結集すれば超えられないものはないと確信しております。今後も各工業組合の皆様と力を合わせて現在ある、そしてこれから起こるであろう困難に立ち向かっていき勝ち残ることが出来ればと思っています。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。